

### ■ 「やさしい日本語」とは？

「やさしい日本語」とは、普段使われている言葉を外国人にもわかるように配慮した、簡単な日本語のことです。1995年1月17日に起きた阪神・淡路大震災では、たくさんの方が大変な被害を受けました。その中には、日本語を十分に理解できない外国人もたくさんいました。

こんな大変なときに、情報が得られなくて困っている。自分の国の言葉で相談できる人もいない。どうしたらいいのだろう…。そんな人たちが、災害発生時にできるだけ早く正しい情報を得られ、適切な行動をとれるように考え出されたのが、「やさしい日本語」です。

- (1) 小学校2・3年生で習う簡単なことばを使用  
(日本語能力検定試験3・4級レベル)
- (2) 1文が短い。(ひらがなだけで書くと24字以内)
- (3) 災害時によく使われることばや知っておいた方がよいことばは説明を加え、そのまま使う。(「津波」、「避難所」、「余震」など)
- (4) カタカナ外来語はできるだけ使わない。(「デマ」など)
- (5) ローマ字は使わない。
- (6) 擬態語や擬音語は使わない。
- (7) 使用する漢字や使用量に注意し(1文あたり3、4字)、全てにルビを振る。
- (8) 名詞化された動詞は分かりにくいため、できるだけ動詞文にする。
- (9) あいまいな表現は避ける。
- (10) 二重否定は避ける。
- (11) 文末表現はなるべく統一する。
- (12) ことばのまとまりを認識しやすいよう、短いポーズを多く用いる。

### ■ 「やさしい日本語」は外国人のために使うものなの？

「やさしい日本語」は、外国人はもちろん、小さな子どもや高齢者、障がい者など、いろいろな人に配慮したコミュニケーション方法の一つです。難しい言葉を簡単な言葉に言い換えるだけでなく、身振り手振りで示したり、絵や写真を使ったり、ゆっくり大きな声で話したり、漢字にルビを振ったり、文字を大きくしたりと、いろいろな工夫をすることで、相手にとってわかりやすい言葉に変わります。

### ■ 「やさしい日本語」講座を開催する目的は？

- 「やさしい日本語」が外国人はもちろん、小さな子どもや高齢者、障がい者に情報を伝える有効な手段の一つであることを知ってもらう。
- 「やさしい日本語」の文を作れるようになってもらう。
- 日ごろの会話や文章を考える時に「やさしい日本語」を使うことを心がけ、災害などが起こったときに「やさしい日本語」を使って情報を伝えることができるようになってもらう。